

／ 精華町農業委員会だより ／

ホウジヨウ



令和
7年 春

61th ISSUE

TAKE FREE

私が思う「農業の未来」

農業委員会は昨冬、町内中学校でアンケート調査を行い、授業で学んだ「農業」に対する考えを尋ねました。対象は2・3年生計533人。集まった回答からは、生徒たちの「生の声」も聴こえてきます。農業に対して今抱いている希望、不安……。詳しくは裏表紙をご覧ください。





機械の整備までこなす近本さん

富農・近本家の再生へ
近本家は代々、広大な農地を持ち、地域の農業の一端を担っていました。兼業農家となった父・賢二さん（故人）の代で縮小されましたが、今も約3000平方メートルが受け継がれています。かつて企業戦士だった近本さんは「勤めていた会社は勤務時間が長い反面、休みが月に10日以上あったので、そんな日に父からの教えも受けながら耕作していました」と追憶します。

しかし、当時の農耕規模では時間の余裕がありました。そこで町役場に相談したところ、北稲八間地区で計約3000平方メートルの田の耕作者を募っているとの情報が入ります。
さらに、耕作者を待つ田に救いの手を差し伸べ続けた近本さん。所有農地と合わせて約3万2000平方メートルに達し、機具の数が間に合わず「友人からトラックを売ってもらったり、新

工具を耕具に持ち替えて

「農業法人として起業し、次世代に任せていける形を作りたい」。取材で頂いた名刺にはすでに「ちかもと農園 近本博光」と、その意志が確かに印字されていました。

(取材=農業委員・石本晋也)

鮮やか轉身、耕地で夢追う

期待のファーマー

僧坊地区 近本博光さん

田畑が減りゆく世の中で、兼業農家から専業農家へ……。4年前、自動車整備の仕事に終止符を打ち、農業一筋の人生を歩み始めた近本博光さん、56歳。農業衰退に危機感を抱き農場を守る男の生き様に迫ります。

車のトラクターを買ったりしました。やがて「これだけ手つかずの農地があるのなら、仕事にできるのでは」と、会社を退職。朝な夕な田畑に寄り添いながら試行錯誤を重ねる日々が始まります。「今は自分の時間を有効に使えるのが強みです」。久御山町では2年間、ネギの栽培も学びました。「理想は（農地全体の）3分の2が米、3分の1がネギですね」と話します。出荷した作物はJAだけでなく、奈良市内の直売所にも並んでいます。

法人として次世代にバトンを

農業に挑む後進へのメッセージとして「独自のものを大切にしながらも、人の助言も聴き入れたほうが、孤立せずサポートも受けやすいですね」。そう語る優しい眼差しに、今の目標を尋ねました。

「農業法人として起業し、次世代に任せていける形を作りたい」。

取材で頂いた名刺にはすでに「ちかもと農園 近本博光」と、その意志が確かに印字されていました。

chikamoto hiromitsu



そよぐ瑞穂、秋の歓び

町内の小中学校・南山城支援学校の児童・生徒が10月10日(木)から31日(木)にかけて、各校近隣の田んぼで恒例の稲刈り体験をしました。子どもたちは、地元農家から説明を受けた後、稲がひしめき合う田んぼで作業を開始。鎌を手に、鈴なりの籾をまとった稲穂を次々に刈り取り、田んぼには一面、休息の時季が訪れました。山田荘小学校3年生(当時)の細谷紗那さんは「鎌で稲を刈る時、思ったより固くて力が入り、勢い良く刈ってしまったと、振り返りました」。



回数を重ねるうち、慣れた手さばきに

農耕作業車はナンバープレートの取得を

無断で田畑を別の物に転用しないで!

相続で登記が変わったら農業委員会にも届け出を

良質米補助金支給しました

令和6年度の精華町良質米出荷奨励事業補助金は、2等米を出荷した農業者にも支給しました。前年を上回る猛暑の影響を受けて、JA京都やましろ精華町支店での1等米出荷数量が減少したことによるものです。

1袋(30kg)あたりの助成単価は次の通りです。▽特別栽培米(1等) 600円▽特別栽培米以外(1等) 500円▽2等米 200円

資材購入半額助成します

今年1月以降に購入した農業用資材について、購入費用の半額(上限5万円)を助成します。今年販売実績があることが条件になります。受け付けは8月からです。詳しくは町広報誌「華創」7月号に掲載予定です。

今夜の食卓 大根を食べつくす

- <4人前>
- 大根(葉付き) 1本
- じゃこ 50g
- だし汁 少々
- 砂糖 少々
- しょうゆ 少々
- いりごま 少々
- サラダ油 少々

- 大根の葉をゆでて5mmほどに切る。
- ①をサラダ油で炒めて、じゃこを入れる。
- ②をだし汁としょうゆで味付けし、汁を飛ばす。
- 厚めにむいた大根の皮を、幅5mmほどに切る。
- ④をサラダ油で炒め、だし汁・砂糖・しょうゆで汁気が無くなるまで炒め、いりごまを振る。



①~③の完成写真

※皮をむいた大根は、煮物や味噌汁の具、ふるふき大根、切り干し大根、サラダに利用する。

(農業委員・山本千恵子)

農業経営と暮らしに役立つ
全国農業新聞
地方方面には身近な情報
申込は農業委員会事務局 95-1903
週刊 購読料月700円

魅力いっぱい! 農業者年金

安心の積み立て方式♪

生涯、受け取れる♪

自由に保険料設定♪

大きな節税効果♪

加入できる人

- 20歳から60歳で、
 - 国民年金の第1号被保険者で、
 - 年間60日以上農業をしている人
- ※農地を持っていない農業者や、農業者の配偶者・後継者など家族農業従事者もOK。

●申し込み・問い合わせ
農業委員会事務局 (Tel. 0774-95-1903)



NO 農, NO LIFE.

町内中学校2・3年生対象農業アンケート結果

※主要設問抜粋。回答者533人。○内数字は得票順。緑数字は票数。

▼親類の営農者や農業関係者<複数回答可>

- ① 149 祖父・祖母
 ② 46 親戚
 ③ 42 父・母
 ④ 3 兄や姉など
 ※ 352 いない

▼これまでに農作業をした場所<複数回答可>

- ① 479 学校
 ② 174 家
 ③ 46 そのほか(親戚や親の勤務先の田畑、幼稚園の芋畑など)
 ※ 20 ない

▼農業に対する興味

- ① 196 あまりない
 ② 142 少しある
 ③ 98 まったくない
 ④ 47 どちらでもない
 ⑤ 33 分からない
 ⑥ 17 すごくある

▼農業生産物の重要性

- ① 304 すごく大事
 ② 147 大事
 ③ 36 どちらかと言えば大事
 ④ 36 分からない
 ⑤ 8 どちらでもない
 ⑥ 2 大事ではない

理由 <農家が一生懸命に作っている。肉や魚では取れない栄養がある。日本産の農業生産物の方が品質が良い。 ほか

▼農業のイメージ<5つまで回答可>

- ① 401 私たちの食料を生産する大事な農業を、これからも守っていかなければならない。
 ② 355 苦勞の多い仕事だと思う。
 ③ 168 食料生産を行っているという農業は、誇りの持てる職業だと思う。
 ④ 152 機械化も進んでいるが手作業も多く重労働だと思う。
 ⑤ 151 農産物を育て販売することは、やりがいのある仕事だと思う。
 ⑤ 151 最近多くなってきた天候異変や病虫害で、安定しない職業だと思う。
 ⑦ 139 時代に合った方法と工夫次第で、効率化と収入増ができると思う。
 ⑧ 124 地域特産物や農業にまつわる伝統は、これからも受け継いでいかなければならない。
 ⑨ 118 自然環境保全の立場からも農業は必要だと思う。
 ⑩ 102 地味なイメージがある。
 ⑪ 42 特にイメージがわからない。
 ⑫ 9 大学の農学部や農業大学校への進学を考えている。

- ⑬ 6 農業を志すためのいろいろなジョブカフェなどのサービスがあることを知っている。

▼将来

- ① 340 今は考えていない。
 ② 144 場所は分からないが農業以外の仕事をしたい。
 理由 <虫が嫌。年収が低い。将来の夢がある。 ほか
 ③ 22 家業は農業だが、辞めてほかの職業の仕事をしたい。
 理由 <※②と同様。
 ④ 10 場所は分からないが農業の仕事をしたい。
 理由 <自然と触れ合うことに強い興味を持っている。 ほか
 ⑤ 7 兼業農家として、家業の農業を守っていききたい。
 理由 <自分に農業は向いていないと思う。 ほか
 ⑤ 7 家業の農業を継ぎたい。
 理由 <家業はずっと続いているから自分の代でやめたくない。広い農地で父や祖父が頑張っている。 ほか
 ⑦ 2 精華町内で自立して農業をしたい。
 理由 <楽しそう。食べ物を育てるのが好き。
 ⑧ 1 精華町内で農業法人や農園に就職して仕事をしたい。

▼町内の農業についての思い

- ・精華町の農家さんが作ってくれた野菜や果物が給食で出たりするが、とてもおいしい。だから私は農業や農業の仕事に興味はないけど、これからも地域の農業を守っていくにはどうするべきか一緒に考えたい。
- ・若者の農業離れが進んでいるのは、農業が安定しない職業だというイメージがあるからだと思う。だから、国全体で農家に対しての給付金や援助などに積極的に取り組んでいかなければいけないと思う。
- ・食料自給率を増やす取り組みを続けていってほしい。
- ・農業を知ることができるイベントをぜひ行ってほしい。
- ・人口が減っていても、地産地消を保てるようにしたい。
- ・機械よりも手作業が多いイメージがあって、大変そうだと思う。
- ・町内で作られた野菜はついつい買ってしまい、なぜか、よりおいしく感じるからこれからも続いてほしい。
- ・精華町のできる農業を伸ばしていく必要があると思う。
- ・精華町の米のほうが、ほかの市販の米よりおいしい。
- ・10年後では今以上に機械が発達していると思う。農作業でドローンを使う試みがあるし、一番大変な水の調整をしないでできて水をあまり使わないお米もあるので、いろいろなことに少しずつ挑戦していく必要がある。若者に農業をしてもらうために、もっと農業のイメージアップが必要だと思う。
- ・農業自体は悪くないと思うけど、自動車の止め方がすごく迷惑な時があるから周りのことも考えてほしい。
- ・農業をしてくれている人たちはありがたい存在だけど、あまり魅力的な職業だとは思わない。
- ・農業は大変で収入も少ないから将来農業に就く人は減っていくと思います。収入をもっと上げて欲しいです。

ほか

tweet note

今の編集委員のメンバーで活動し、1年が経ちました。皆さんに興味を持ってもらえる「ハウジョウ」の発行を目指していきますので、よろしくお祈りします (^_^)



精華町農業委員会事務局 京都府相楽郡精華町大字南稲八妻小字北尻70番地(精華町役場3階)
 TEL 0774-95-1903
 令和7年3月発行 ※本紙は町ホームページでも公開しています。

